

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
教育学部	学校教育課程	夜・通信	27	56	0	83	13	
医学部	医学科	夜・通信		0	25	50	19	
	看護学科	夜・通信			34	59	13	
工学部	環境応用化学科	夜・通信	25	24	0	49	13	
	社会環境システム工学科	夜・通信			2	51	13	
	環境ロボティクス学科	夜・通信			0	49	13	
	機械設計システム工学科	夜・通信			2	51	13	
	電子物理工学科	夜・通信			4	53	13	
	電気システム工学科	夜・通信			0	49	13	
	情報システム工学科	夜・通信			4	53	13	
	工学科	夜・通信			27	76	13	
農学部	植物生産環境科学科	夜・通信		0	10	35	13	
	森林緑地環境科学科	夜・通信			11	33	13	
	応用生物科学科	夜・通信			23	46	13	
	海洋生物環境学科	夜・通信			5	30	13	

	畜産草地科学科	夜・通信	27		4	29	13	
	獣医学科	夜・通信			69	94	19	
	農学科	夜・通信		0	6	31	13	
地域資源創成学部	地域資源創成学科	夜・通信		44	0	69	13	
(備考)								
2025 年度に農学部を改組し、農学科、獣医学科の 2 学科に再編。								
2025 年度以降入学：農学科、獣医学科								
2024 年度以前入学：植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境学科、畜産草地科学科、獣医学科								
2021 年度に工学部を改組し、新たに工学科を設置。								
2021 年度以降入学：工学科 ※編入生は除く								
2020 年度以前入学：環境応用化学科、社会環境システム工学科、環境ロボティクス工学科、機械設計システム工学科、電子物理工学科、電気システム工学科、情報システム工学科								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://syllabus.eden.miyazaki-u.ac.jp/>

「表示条件 ☐ 実務経験のある教員による授業科目」に✓→「検索」

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/yakuinshoukai01_20250401.pdf
1 ページ参照

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	文部科学省職員	2025.4.1～ 2027.3.31	総務
非常勤	弁護士	2009.4.1～ 2027.3.31	法務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 「シラバス作成のためのガイドライン(シラバス作成要領)」(令和3年10月21日宮崎大学教育委員会決定)に基づき、シラバスを作成している。授業開始前に、授業科目に関する基本情報、授業の目標に関する情報、授業内容・方法に関する情報、成績評価に関する情報、教材に関する情報、教員に関する情報、履修に関する情報を記載したものを作成し、学生に周知している。 宮崎大学教育委員会は、年度毎に全授業科目について作成状況を点検し、すべての部局においてシラバス作成率が100%になるよう厳密に管理している。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.eden.miyazaki-u.ac.jp/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価を受ける出席要件は、授業回数の75%以上(医学部では3分の2以上)としている。成績評価基準と成績評価方法は、キャンパスガイド及びシラバスを通して学生に周知し、学期の初回の授業時にも説明している。シラバスに明記された成績評価基準・評価方法に従って、授業への取組状況、レポート、中間テスト、最終試験等の組み合わせにより成績評価を行い、単位を認定している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学の教育方針として、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）の点検・評価項目の一つに「GPA制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価・改善を行う」と定めている。 GPAの計算方法については、以下のとおりキャンパスガイドや大学のウェブサイトで公表している。 $GP = (\text{成績素点} - 54.5) / 10$ 不合格(60点未満)の場合、GPはゼロとする。 $GPA = \Sigma (\text{科目のGP} \times \text{科目の単位数}) / \Sigma (\text{履修登録単位数})$ Σは、各学期または累積の受講科目に関する合計を示す。 また、本学では、学生が学習・教育目標を高いレベルで達成するため、学修支援システムの一つである「学習カルテ：履修システム」にGPAを導入し、学生自ら自分のGPAを確認できるようにしている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.miyazaki-u.ac.jp/manabi/dtlm/gpa-1.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 大学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に定めている。 卒業認定基準については学務規則に定めており、学長は卒業認定基準に従って各学部教授会の議を経て、卒業認定を行っている。学生にはキャンパスガイドで周知するとともにウェブサイトで公表している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	宮崎大学
設置者名	国立大学法人宮崎大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/finance/reporting.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	
事業報告書	http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/finance/reporting.html
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~hyouka_web2/gakugai/new/jikotenken.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~hyouka_web2/gakugai/new/ninsyou.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部小中一貫教育コース		
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）		
（概要） 教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。 1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること 2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと 3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること 4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）		
（概要） 教育学部では、本学に所定の期間在籍し、基準となる単位を修得するとともに、本学部の目的・理念及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（教育学）の学位を授与する。 1. 全学に共通な学修成果である「学士基盤力」を身につけている 2. 学部共通及び課程（コース）における「学士専門力」を身につけている 3. 卒業研究として、獲得した知識や技能を統合し課題を解決することができ、その成果を論文としてまとめることができる ○学士専門力 以下に、各専攻の育成する資質・能力とその評価方法について示す。		
育成する資質・能力	学修成果	評価方法
使命感・責任感・教育愛 (1) 使命感・倫理感 (2) 主体的に学ぶ力 (3) 総合的な教育実践力	(1) 小学校・中学校・小中一貫校の教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できる (2) 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる (3) 自他の教育実践を省察して、自己の課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる	・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
社会性・対人関係能力 (1) チームワーク (2) 課題解決力 (3) 情報リテラシー	(1) 将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するための基礎となる「他者との協調・協働」ができる (2) 課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分	・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポ

	析して、その課題を解決する方策をとることができる (3) 情報通信技術 (ICT) を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる	ートフォリオに関する自己評価
子ども理解・学級経営 (1) 児童・生徒理解 (2) 生徒指導・学級経営 (3) 個と多様性の尊重	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、児童・生徒の実態を把握することができる (2) 児童・生徒の実態に即した生徒指導及び学級経営に取り組むことができる (3) 個と多様性を尊重し、小学校・中学校・小中一貫校の教員に必要な教育的愛情を持って児童・生徒に接することができる	・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
教科等の指導力 (1) 教育の基礎理論に関する知識 (2) 教科等の内容に関する知識・技能 (3) 教科等の指導法に関する知識・実践力	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる (2) 各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる (3) 小学校・中学校・小中一貫校の教育課程や指導法に関する知識及び技能を児童生徒の実態に応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>）

（概要）

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーションを含む）、専門接続系）と未来共創科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 小学校・中学校・小中一貫校の教員としての知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 小学校・中学校・小中一貫校の教員に必要な使命感や倫理観を持ち、子どもの発達段階や実態に応じた適切な支援によって子どもの成長を支えることのできる指導力が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、小中一貫教育や校種の教育課程の編成を理解できるように、「小中一貫教育の理論と実践」と「小中一貫教育実践研究」を設

置する。

6. 教科に関する内容および指導法の確かな知識や技能が身につくように、「教科および教科の指導法に関する科目」を設置する。
7. 自身の専修において、教科の内容および指導法のより深い専門性が身につくように、中学校の各教科の「教科および教科の指導法に関する科目」を設置する。
8. 理論と結びつけながら教育実践でき、他者と協働して課題解決に取り組むことで主体的な学習力が身につくように「教育実践に関する科目」を設置する。
9. 修得した知識や技能を活かし、新たな課題を発見し解決へ向けての方針を計画・実施し、その成果を論文としてまとめる力が身につくように「卒業論文」を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、公表された成績評価基準・方法に基づき、定量的または定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
5. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。
6. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体をカリキュラムマップで評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

小中一貫教育コースでは、児童・生徒の長期にわたる発達過程を見通す見識、児童・生徒への深い理解力、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身につけた教員の養成を目標としています。

1. 求める学生像

小中一貫教育コースでは、小学校・中学校・小中一貫校等の教員を目指す教職への意欲にあふれ、教職に必要なたしかな知識・技能(以下、「知識・技能」)について研鑽を積み、教育課題を解決するために必要な思考力(以下、「思考力」)と児童・生徒への適確な指導に資する表現力(以下、「表現力」)と学校現場で生きる協調性(以下、「協調性」)をもち、それらを高めるべく努力を怠らない人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

・一般選抜

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。

・学校推薦型選抜、総合型選抜〈一般枠、帰国生徒枠〉

一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的でかつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））

求める能力や適性等 選抜方法		知識・技能	思考力	表現力	教職への意欲	協調性
前期日程	共通テスト	◎	○			
	個別学力検査	◎	◎	◎		
	面接	○	◎	◎	◎	○
後期日程	共通テスト	◎	○			
	小論文	○	◎	◎	○	
	面接	○	◎	◎	◎	○
学校推薦型選抜 小学校主専攻 (宮崎県教員希望枠)	共通テスト	◎	○			
	小論文	○	◎	◎	○	
	面接	○	◎	◎	◎	○
	提出書類	○	○	○	◎	
学校推薦型選抜 中学校主専攻	共通テスト	◎	○			
	小論文	○	◎	◎	○	
	面接	○	◎	◎	◎	○
	提出書類	○	○	○	◎	
総合型選抜 (一般枠) (大学入学共通 テストを課さない) 小学校主専攻 (宮崎県教員希望枠)	小論文	○	◎	◎	○	
	面接	○	◎	◎	◎	○
	口頭試問	◎	◎	◎		○
	提出書類	○	○	○	◎	
総合型選抜 (一般枠) (大学入学共通 テストを課さない) 中学校主専攻 (音楽・美術・保健体育)	小論文	◎	◎	◎	○	
	面接	◎	◎	◎	◎	○
	各教科の定める 個別審査	◎	◎	◎		
	提出書類	○	○	○	◎	
総合型選抜 (帰国生徒枠)	小論文	◎	◎	◎	○	
	面接	○	◎	◎	◎	○
	提出書類	○				

4. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの教科に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、「思考力」、「表現力」、「協調性」など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれます。

学部等名	教育学部教職実践基礎コース
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）	
（概要） 教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。 1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること 2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと 3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること 4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること	
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html ）	
（概要） 教育学部では、本学に所定の期間在籍し、基準となる単位を修得するとともに、本学部	

の目的・理念及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（教育学）の学位を授与する。

1. 全学に共通な学修成果である「学士基盤力」を身につけている
2. 学部共通及び課程（コース）における「学士専門力」を身につけている
3. 卒業研究として、獲得した知識や技能を統合し課題を解決することができ、その成果を論文としてまとめることができる

○学士専門力

以下に、各専攻の育成する資質・能力とその評価方法について示す。

育成する資質・能力	学修成果	評価方法
使命感・責任感・教育愛 (1) 使命感・倫理感 (2) 主体的に学ぶ力 (3) 総合的な教育実践力	(1) 学校教育制度の社会的役割を理解し、学校教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できるとともに、社会の一員として適切に行動できる (2) 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる (3) 授業実践の基礎となる教育方法、学習方法、教育課程編成の原理や歴史的遺産を踏まえて自他の教育実践を省察し、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる	・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
社会性・対人関係能力 (1) チームワーク (2) 課題解決力 (3) 情報リテラシー	(1) 将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するための基礎となる「他者との協調・協働」ができる (2) 課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる (3) 情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
子ども理解・学級経営 (1) 児童・生徒理解 (2) 生徒指導・学級経営 (3) 個と多様性の尊重	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、児童・生徒の実態を把握することができる (2) 教育方法及び学習理論、学校・学級経営等に関する専門的知識・技能	・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の授

	に基づき、生徒指導及び学級経営に取り組むことができる (3) 個と多様性を尊重し、学校教員に必要な教育的愛情を持って児童・生徒に接することができる	業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
教科等の指導力 (1) 教育の基礎理論に関する知識 (2) 教科等の内容に関する知識・技能 (3) 教科等の指導法に関する知識・実践力	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校教育の成り立ちや現代の学校が直面しているさまざまな教育課題を明確に理解し、適切な対応を考えることができる (2) 各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる (3) 教育課程・学習開発、指導法に関する知識及び技能を、一人一人の幼児・児童・生徒の成長や個性に応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>）

（概要）

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーションを含む）、専門接続系）と未来共創科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 学校の教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 学校の教員に必要な使命感や倫理観を持ち、子どもの発達段階や実態に応じた適切な支援によって子どもの成長を支えることのできる指導力が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、現代の教育課題に対応できる高度な実践力を身につけるため、教職大学院までの6年間を見通した「教職実践基礎コース専門科目」として「教職に関する科目」を設置する。
6. 教科に関する内容および指導法の確かな知識や技能が身につくように、「教科および教科の指導法に関する科目」を設置する。
7. 理論と結びつけながら教育実践でき、他者と協働して課題解決に取り組むことで主体的な学習力が身につくように「教育実践に関する科目」を設置する。
8. 修得した知識や技能を活かし、新たな課題を発見し解決へ向けての方針を計画・実施

し、その成果を論文としてまとめる力が身につくように「卒業論文」を設置する。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目のシラバスにおいて、学修（到達）目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、シラバス等で成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、公表された成績評価基準・方法に基づき、定量的または定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
5. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。
6. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体をカリキュラムマップで評価する

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>)

（概要）

教職実践基礎コースでは、幼児期から青年期にわたる長期の発達過程を見通した上で、幼稚園・小学校・中学校・小中一貫校・義務教育学校に共通する教職に関する高い専門性を持ち、現代の教育課題に多角的に対応できる教員の養成を目標としています。

1. 求める学生像

教職実践基礎コースでは、幼稚園・小学校・中学校・小中一貫校・義務教育学校における教育に対して熱意を持って取り組み、教科全般に関わる基礎学力、また、得意とする分野の学力や技能（以下、「知識・技能」）を有し、これらを教育実践に活用しようとする教職への意欲を持っている人、現代の教育課題に対応するために、幅広い学問や文化を意欲的に学び、広い視野を身につけ、それを幼児教育・初等教育・中学校教育・小中一貫教育に生かす思考力・表現力（以下、「思考力・表現力」）を持っている人、また、学び続ける喜びを幼児・児童・生徒と共有したいと考え、宮崎県をはじめとする地域に根ざす学校づくりの有力な一員となる協調性（以下、「協調性」）を持っている人を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

・一般選抜

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。

・学校推薦型選抜（宮崎県教員希望枠）

高等学校での学業成績が優秀で、宮崎県の小学校教員を目指す者を対象とし、入学者を選考します。

・総合型選抜（帰国生徒枠）

一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的かつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））

選抜方法	求める能力や適性等	知識・技能	思考力 表現力	教職への意欲	協調性
------	-----------	-------	------------	--------	-----

前期日程	共通テスト	◎	○		
	個別学力検査	○	◎		
	面接	○	○	◎	◎
学校推薦型選抜 (宮崎県教員希望枠)	小論文	○	◎	◎	
	面接	○	○	◎	◎
	提出書類	○		◎	
総合型選抜 (帰国生徒枠)	小論文	○	◎	◎	
	面接	○	○	◎	◎
	提出書類	○		◎	

4. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの教科に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、「思考力・表現力」、「協調性」など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望まれます。

学部等名 教育学部発達支援教育コース		
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ）		
（概要） 教育学部は、宮崎県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す宮崎大学の主要な学部として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、宮崎県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本理念としています。この基本理念に基づき、以下の教育目的を掲げております。 1. 教員養成の観点から要求される専門的知識、専門的学力を身につけること 2. 様々な知識や技能を総合して、現代的課題を的確に判断し、解決する力を養うこと 3. 幅広い教養を身につけた豊かな人間性と道徳性、及び積極的意欲をもった主体性を育成すること 4. 国際感覚をもつとともに、地域の自然や文化や歴史を理解し、国際社会及び地域社会の発展に貢献しうる能力を育成すること		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ）		
（概要） 教育学部では、本学に所定の期間在籍し、基準となる単位を修得するとともに、本学部の目的・理念及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（教育学）の学位を授与する。 1. 全学に共通な学修成果である「学士基盤力」を身につけている 2. 学部共通及び課程（コース）における「学士専門力」を身につけている 3. 卒業研究として、獲得した知識や技能を統合し課題を解決することができ、その成果を論文としてまとめることができる		
○学士専門力		
以下に、各専攻の育成する資質・能力とその評価方法について示す。		
＜子ども理解専攻＞		
育成する資質・能力	学修成果	評価方法
使命感・責任感・教育愛 (1) 使命感・倫理感 (2) 主体的に学ぶ力 (3) 総合的な教育実践力	(1) 小学校、幼稚園・認定こども園の教員としての使命感や倫理観を持つて教育活動に関与できる (2) 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践	・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・

	できる (3) 自他の教育実践を省察して、自己の課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる	教育愛」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
社会性・対人関係能力 (1) チームワーク (2) 課題解決力 (3) 情報リテラシー	(1) 将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するための基礎となる「他者との協調・協働」ができる (2) 課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる (3) 情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
子ども理解・学級経営 (1) 児童・生徒理解 (2) 生徒指導・学級経営 (3) 個と多様性の尊重	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、心理・行動的問題を示す幼児・児童とのコミュニケーションを図り、幼児・児童の実態を理解することができる (2) 幼児・児童のメンタルヘルスの状態に配慮して、問題の予防・対処に必要な生徒指導、教育相談及び学級経営に取り組むことができる (3) 個と多様性を尊重し、小学校、幼稚園・認定こども園の教員に必要な教育的愛情を持って幼児・児童に接することができる	・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
教科等の指導力 (1) 教育の基礎理論に関する知識 (2) 教科等の内容に関する知識・技能 (3) 教科等の指導法に関する知識・実践力	(1) 学校教育の基礎的諸理論に基づき、学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる (2) 小学校の各教科等の内容及び幼稚園・認定こども園の保育内容に関する知識及び技能を修得	・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価

	し、それを教育実践に活用することができる (3) 幼児・児童の成長やメンタルヘルスの状態に配慮しながら、小学校・幼稚園・認定こども園の教育課程や指導法に関する知識及び技能を授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる	
--	---	--

<特別支援教育専攻>

育成する資質・能力	学修成果	評価方法
使命感・責任感・教育愛 (1) 使命感・倫理感 (2) 主体的に学ぶ力 (3) 総合的な教育実践力	(1) 特別支援教育に携わる教員としての使命感や倫理観を持って教育活動に関与できる (2) 自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる (3) 特別支援学校や小学校における自他の教育実践を省察することで、自己の学習課題を明確にし、理論と結びつけながら教育実践に取り組むことができる	・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「使命感・責任感・教育愛」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
社会性・対人関係能力 (1) チームワーク (2) 課題解決力 (3) 情報リテラシー	(1) 将来、同僚職員等の様々な人と協調・協働して教育課題を解決するための基礎となる「他者との協調・協働」ができる (2) 課題を発見し、情報や知識を多面的、論理的に分析して、その課題を解決する方策をとることができる (3) 情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、その結果を効果的に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「社会性・対人関係能力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価
子ども理解・学級経営 (1) 児童・生徒理解 (2) 生徒指導・学級経営 (3) 個と多様性の尊重	(1) 知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等の障害特性を理解し、特別な教育的支援を必要とする子どもの実態を把握することができる (2) 特別な教育的支援を必要とする子どもの実態	・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「子ども理解・学級経営」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオ

	に即した生徒指導及び学級経営に取り組むことができる (3) 個と多様性を尊重し、特別支援教育に携わる教員に必要な教育的愛情を持って子どもに接することができる	に関する自己評価
教科等の指導力 (1) 教育の基礎理論に関する知識 (2) 教科等の内容に関する知識・技能 (3) 教科等の指導法に関する知識・実践力	(1) 学校教育及び特別支援教育の基礎的諸理論に基づき、知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等の子どもが抱えているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる (2) 各教科等の内容に関する知識及び技能を修得し、それを教育実践に活用することができる (3) 特別支援学校の教育課程や知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害等に対する指導法に関する知識及び技能を一人ひとりの子どもの発達や障害特性の応じた授業計画、教材・教具の工夫に活用することができる	・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の修得 ・カリキュラムマップに示す「教科等の指導力」に係わる科目の授業評価における学士力達成度及びポートフォリオに関する自己評価

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>）

（概要）

【教育課程の編成】

＜子ども理解専攻＞

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーションを含む）、専門接続系）と未来共創科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 小学校、幼稚園・認定こども園の教員としての知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 小学校の教員として必要な使命感や倫理観を持ち、子どもの発達段階や実態に応じた適切な支援によって子どもの成長を支えることのできる指導力が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。また、子どもと子どもをとりまく大人の心理や行動に対する省察や、問題の予防や対処のための専門的な知識や技能が身につくように、「教職に関する科目」として子ども理解に関する科目を設置する。

6. 幼稚園・認定こども園の教員として必要な使命感や倫理観、および幼稚園教育に関する確かな知識と指導法が身につくように「保育内容の指導法」等を設置する。
7. 教科に関する内容および指導法の確かな知識や技能が身につくように、「教科および教科の指導法に関する科目」を設置する。
8. 理論と結びつけながら教育実践でき、他者と協働して課題解決に取り組むことで主体的な学習力が身につくように「教育実践に関する科目」を設置する。
9. 修得した知識や技能を活かし、新たな課題を発見し解決へ向けての方針を計画・実施し、その成果を論文としてまとめる力が身につくように「卒業論文」を設置する。

＜特別支援教育専攻＞

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。
2. 基本的な学習能力を獲得できるように、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーション含む）、専門接続系）と未来共創科目を設置する。
3. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置する。
4. 特別支援教育に携わる教員に必要な知識と専門的能力および実践的指導力が身につくように、教育目標に即した専門科目群を、大きく基礎期、展開期、応用・統合期に分けて段階的に設置する。
5. 学校の教員に必要な使命感や倫理観を持ち、子どもの発達段階や実態に応じた適切な支援によって子どもの成長を支えることのできる指導力が身につくように、「教職に関する科目」を設置する。
6. 特別支援教育に関する確かな知識と指導法が身につくように、「特別支援教育に関する科目」を設置する。
7. 教科に関する内容および指導法の確かな知識や技能が身につくように、「教科および教科の指導法に関する科目」を設置する。
8. 理論と結びつけながら教育実践でき、他者と協働して課題解決に取り組むことで主体的な学習力が身につくように「教育実践に関する科目」を設置する。
9. 修得した知識や技能を活かし、新たな課題を発見し解決へ向けての方針を計画・実施し、その成果を論文としてまとめる力が身につくように「卒業論文」を設置する。

【教育内容・方法】

＜子ども理解専攻＞

1. 各授業科目のシラバスにおいて、学修（到達）目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。

＜特別支援教育専攻＞

1. 各授業科目のシラバスにおいて、学修（到達）目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
2. 知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力が養われるように、講義、演習、実習あるいは実験などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行う。

【学修成果の評価】

＜子ども理解専攻＞

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、シラバス等で成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、公表された成績評価基準・方法に基づき、定量的または定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係

わる情報を適切に収集・分析する。 4. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。 5. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。 6. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体をカリキュラムマップで評価する。 ＜特別支援教育専攻＞ 1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、シラバス等で成績評価基準・方法を策定・公表する。 2. 個々の授業科目においては、公表された成績評価基準・方法に基づき、定量的または定性的な根拠により厳格な評価を行う。 3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係わる情報を適切に収集・分析する。 4. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。 5. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。 6. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体をカリキュラムマップで評価する。																																																			
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departments-exam/educational-policy.html）																																																			
（概要） ＜子ども理解専攻＞ 子ども理解専攻では、幼児期から児童思春期にわたる子どもの心理、発達過程を見通す深い見識と理解力、教員としての使命感、責任感、教育的愛情を身に付けた教員の養成を目的としています。 1. 求める学生像 子ども理解専攻では、幼児期から児童思春期の子どもの教育に対する意欲にあふれ、教職に必要なたしかな知識・技能(以下、「知識・技能」)について研鑽を積み、目標に向けて強い意志と行動を貫くことができる思考力・主体性(以下、「思考力・主体性」)、児童・生徒への適確な指導に資する表現力(以下、「表現力」)と学校現場で子どもと保護者と信頼関係を築き、同僚と協力して問題に取り組んでいける対人関係能力(以下、「協調性」)を身に付けるための努力を怠らない人材を求めています。 2. 入学者選抜の基本方針 - 一般選抜 入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。 - 学校推薦型選抜、総合型選抜（帰国生徒選抜） 一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的にかつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。 3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">求める能力や適性等 選抜方法</th><th>知識・技能</th><th>思考力 主体性</th><th>表現力</th><th>教職への意欲</th><th>協調性</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">前期日程</td><td>共通テスト</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>個別学力検査</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>面接</td><td>○</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td></tr> <tr> <td rowspan="3">学校推薦型選抜</td><td>共通テスト</td><td>◎</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>面接</td><td>○</td><td>◎</td><td>◎</td><td>◎</td><td>○</td></tr> <tr> <td>提出書類</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td></tr> </tbody> </table>		求める能力や適性等 選抜方法		知識・技能	思考力 主体性	表現力	教職への意欲	協調性	前期日程	共通テスト	◎	○				個別学力検査	○	◎	○			面接	○	◎	◎	◎	◎	学校推薦型選抜	共通テスト	◎	○				面接	○	◎	◎	◎	○	提出書類	○	○	○	◎	○					
求める能力や適性等 選抜方法		知識・技能	思考力 主体性	表現力	教職への意欲	協調性																																													
前期日程	共通テスト	◎	○																																																
	個別学力検査	○	◎	○																																															
	面接	○	◎	◎	◎	◎																																													
学校推薦型選抜	共通テスト	◎	○																																																
	面接	○	◎	◎	◎	○																																													
	提出書類	○	○	○	◎	○																																													

総合型選抜 (帰国生徒枠)	小論文		◎	◎	◎	
	面接	○	◎	◎	◎	○
	提出書類	○	○	○	◎	○

4. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの教科に関する基礎学力を十分身に付けておくことが望めます。また、「思考力・主体性」、「表現力」、「協調性」など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人コミュニケーション能力を身に付けておくことが望めます。

<特別支援教育専攻>

特別支援教育専攻では、障害のある児童・生徒それぞれの発達や特徴を捉える見識と深い児童・生徒理解力を持って初等教育を施すことができ、その上で障害に基づく種々の課題や困難を改善または克服するのに必要な知識、技能、態度及び習慣を養うための指導ができる特別支援学校教員の養成を目的としています。

1. 求める学生像

特別支援教育専攻では、特別支援教育に対する意欲を持って取り組み、特別支援教育に関する学修に十分対応できる基礎学力や基礎技能（以下、「知識・技能」）を有し、目標達成に向けて強い意志と行動を貫くことができる思考力・表現力（以下、「思考力・表現力」）、愛情豊かに他者を思いやることのできる協調性（以下、「協調性」）を持つ人、また、学修を通して獲得した知識・技能・行動力を教育現場に還元するための粘り強く創意工夫する力や向上心（以下、「創意工夫・向上心」）を有している人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

・一般選抜

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。

・学校推薦型選抜

高等学校での学業成績が優秀で、特別支援学校教員を目指すことに意欲的な者を対象とし、入学者を選考します。

・総合型選抜（帰国生徒枠）

一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的かつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））

求める能力や適性等 選抜方法		知識・技能	思考力 主体性	特別支援教育 への意欲	協調性	創意工夫 向上心
前期日程	共通テスト	◎	○			
	個別学力検査	○	◎			
	面接		○	◎	◎	○
学校推薦型選抜	小論文	○	◎			
	面接		○	◎	◎	○
	提出書類	◎		○		
総合型選抜 (帰国生徒枠)	小論文	○	◎			
	面接		○	◎	◎	○
	提出書類	◎		○		

4. 入学までに身に付けてほしいこと

高等学校で履修した国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの教科に関する基礎的学力を十分身に付けておくことが望めます。また、「思考力・表現力」、「協調性」など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望めます。

学部等名 医学部医学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ） （概要） 医学部は、昭和 49 年国の無医大県解消施策・一県一医大構想のもとに設立された宮崎医科大学を前身とし、平成 15 年 10 月の統合により、その 29 年の歴史を終え宮崎大学医学部となりました。本学部の使命は「地域における医学・医療の中心的な役割を果たすと同時に、進歩した 医学・看護学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔な医師、医学者、看護職者及び看護学研究者を育成し、国内外の医学及び看護学の水準向上と社会福祉に貢献すること」を使命としています。 さらに医学科は、宮崎の地域医療に貢献でき、国際的にも活躍できる優れた医師及び医学研究者の育成を目指しています。本学科の卒業生は、医師として、医学研究者として、あるいは医学教育者として幅広い分野で活躍し、医学の発展と社会福祉の向上に貢献しています。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ） （概要） 宮崎大学医学部医学科では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位(学士号)を授与します。 1. 社会に貢献できる医療人として、豊かな人間性を持ち、謙虚な心で、人命尊重、的確な判断力、実行力を備え、義務と権利を適正に行使できる。 2. 自ら学修計画を立て、主体的に学び、自己研鑽し、最新の医学の知識を生涯にわたって学修することができる。 3. 教育によって身に付けた医学の知識や新たな知見を複眼的、論理的に分析するとともに、課題を認識し医療の進歩に貢献できる。 4. 相手の伝えたいことを的確に理解し、自己を表現でき、他職種と連携してチーム医療を実践できる。 5. 医学を学ぶ機会が得られたことへの感謝の心とプロフェッショナルとしての自覚を持ち、教育で得た知識、技能によって地域医療に貢献できるとともに、グローバルにも活躍できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html ） （概要） 医学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【教育課程の編成】 以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。本教育課程は、6 年間を通して、本学科が教育目標とする「進歩した医学を修得せしめ、人命尊重を第一義とし、医の倫理に徹した人格高潔で、社会の多様なニーズに対して広い視野をもって医学を実践できる資質の高い医師、並びに医学研究者を育成する」を体現化するよう体系化され、基礎から専門へ、経年的に知識・技術が積み重ねられるように教養教育科目、専門科目を設定しています。 1. 教育科目は教養教育科目、専門科目である基盤形成科目、臨床医学科目に大別されます。教養教育科目には、大学人、社会人としての教養と専門教育の基礎的知識と基本的な学習能力を獲得するために、すべての学生が履修する全学共通カリキュラムとして、導入科目、課題発見科目、未来共創科目が設定されています。学生の主体性が発揮できるように、また、医学を学ぶために必要な幅広い知識、教養、豊かな人間性と情操の育成のために多くの科目を設定しています。 2. 基盤形成科目は、医学の基礎となる教育内容に重点をおいた授業科目で、1 年次から 3 年次に開設されます。また、最新の医療トピックにも関心がもてるように授業内容を

工夫しています。

3. 臨床医学科目は、臨床医として望ましい態度・価値観と必要とされる知識・技術を身に付けさせることを目的として、3年次後期から6年次に臨床実習教育を含めて開設されます。4年次の臨床実習前には、臨床診断学実習において、臨床医として望ましい態度や価値観を早期に身に付けさせる教育を行い、また、本学科の進級試験の他に全国共通の「共用試験」が課せられ、臨床実習を行うために必要不可欠な知識・技能・態度が修得できているかについて、厳正・公正な評価を行っています。
4. 臨床実習教育は臨床医として望ましい態度や価値観を早期に身に付けさせることを目的として開設されます。4年次後期から5年次前期のクリニカル・クラークシップⅠは、本学附属病院の各診療科をローテーションで回り、5年次後期から6年次前期のクリニカル・クラークシップⅡでは、学内診療科及び学外医療機関で、共に少人数グループを重視した臨床参加型実習として行われています。地域医療を含め豊富な症例に接することにより臨床経験の幅を広くし、充実した臨床実習を行うため、本学附属病院のほかに、県立宮崎病院などの学外の関連教育病院と連携協力し、臨床実習教育を行っています。
5. これとは別に医学生としての自覚を早期に促すことを目的として、1年次、2年次に学内・学外で医療と介護の体験実習を行います。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、ディプロマ・ポリシーに従い、到達目標、授業計画、成績評価基準、学習方法を明示し、周知します。
2. 教養教育カリキュラムでの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるよう指導します。
3. 専門教育において、知識・技能、理論・実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習等の多様な教育方法を取り入れます。
4. 学士課程において、地域の理解を深めるため、学外での実習等を取り入れ、地域の課題を理解し、対応できるように教育します。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表します。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行います。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析します。
4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価します。
5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行います。
6. 学生が学修目標の達成状況を、エビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

医学科では、臨床医、医学研究者、あるいは医学教育者として宮崎の地域医療に貢献し国際的にも活躍できる、優れた人材の育成を目標としています。

1. 求める学生像

医学科では、自ら課題を見つけ解決しようとする探求心と意欲、行動力（主体性・学問への関心）を有し、医学と医療を学ぶために必要な幅広い基礎学力・応用能力（知識・技能）と他者と協調・共感できる豊かな人間性（協調性・思考力・表現力）を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる人材を求めて

います。

2. 入学者選抜の基本方針

選抜区分	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。
学校推薦型選抜 (地域枠)	高等学校での学業成績が優秀で、宮崎県の地域医療に貢献する熱意がある入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））

求める能力や適性等 選抜区分		知識・技能	主体性 学問への関心 協調性 思考力 表現力
前期日程・後期日程	共通テスト	◎	○
	個別学力検査	○	◎
	面接		◎
学校推薦型選抜 (地域枠)	共通テスト	◎	○
	面接		◎

4. 入学までに身に付けてほしいこと

高校で履修した科目に関する基礎学力について十分な深達度を得ていることが望まれる。さらに、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれる。

学部等名 医学部看護学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

（概要）

医学部看護学科は昭和 49 年に設立された宮崎医科大学が前身であり、平成 13 年に併設されました。平成 15 年 10 月年に旧宮崎大学と統合して、宮崎大学医学部看護学科として、現在まで多くの優秀な医療人・医学研究者を世に送り出しています。わたくしたちは、日頃から統合後の新生宮崎大学のスローガンである『世界を視野に地域から始めよう』のもと、地域社会はもとより広く世界に通用する医療人、医学研究者の育成を目指しています。看護学科の卒業生は、人間性豊かな看護師、保健師、または助産師として人々の健康への援助を実践し、看護学の発展ならびに社会福祉に貢献しています。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

宮崎大学医学部看護学科では、以下の素養を身に付けるとともに、所定の期間在籍し、基準となる単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位(学士号)を授与します。

1. 社会に貢献できる医療人として、豊かな人間性を持ち、謙虚な心で、人命尊重、的確な判断力、実行力を備え、義務と権利を適正に行使できる。
2. 自ら学修計画を立て、主体的に学び、自己研鑽し、最新の看護学の知識を生涯にわた

って学修することができる。 3. 教育によって身に付けた看護学の知識や新たな知見を複眼的、論理的に分析するとともに課題を認識し医療の進歩に貢献できる。 4. 相手の伝えたいことを的確に理解し、自己を表現でき、他職種と連携してチーム医療を実践できる。 5. 看護学を学ぶ機会が得られたことへの感謝の心とプロフェッショナルとしての自覚を持ち、教育で得た知識、技能によって地域医療に貢献できるとともに、グローバルにも活躍できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html）
（概要） 看護学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【教育課程の編成】 以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。 1. 本教育課程は、4年間を通して、本学科の目標とする「情操豊かな人間性と生命尊厳への畏敬の心をもった看護専門職」を育成するように体系化しています。基礎から専門へ、経年的に知識・技術が積み重ねられるように教養教育科目、専門基礎科目、専門科目を設定し、系統的に科目を配置しています。 2. 教養教育科目は大学人としての教養と専門教育の基礎知識と基本的な学習能力を獲得するために、すべての学生が履修する全学共通カリキュラムとして、導入科目、課題発見科目、未来共創科目が設定されています。学生の主体性が発揮できるように、また、看護学を学ぶために必要な幅広い知識と教養と、豊かな人間性と情操の育成のために多くの科目を設定しています。 3. 専門基礎科目は、人間理解、健康と疾病理解、保健社会の仕組みの理解を主軸に構成しています。そして最新の医療トピックにも関心が持てるよう授業内容を工夫しています。 4. 専門科目は、教養教育科目、専門基礎科目を基盤としたうえで、基礎看護学、在宅看護学、地域看護学、成人・老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学を設定しています。また、実践能力や課題解決能力を高め、主体的に専門性を深める統合と実践の科目を設定しています。 5. 看護学は対象の健康ニーズへの援助を行う実践の科学です。看護の対象となる人々の生活者としての側面と身体的・精神的側面を包括的に理解し、対象に応じた看護を実践し、評価する臨地実習を設定しています。1、3年次にはひむか看護実習で地域で暮らす生活者としての人々を理解し、1、2年次には基本的な看護の役割を理解する基礎看護学実習、そして、さまざまな発達の段階や健康の段階の対象者に対応する3年次の専門領域看護学実習につなげます。さらに4年次には既存の学びを統合し、主体的に看護が実践できる統合実習を設定しています。 6. 宮崎県の地域特色を活かした教育・研究・地域貢献を推進するため、地域の理解と課題解決に取り組む科目を設定しています。 7. 保健師免許取得を希望する学生のために公衆衛生看護学を履修するための科目を設定しています。（選抜制）。 8. 養護教諭二種免許（保健師免許取得後）を申請できるように、教養教育科目に教育免許法施行規則に定められた科目を設定しています。 【教育内容・方法】 1. 各授業科目について、ディプロマ・ポリシーに従い、到達目標、授業計画、成績評価基準、学習方法を明示し、周知します。 2. 教養教育カリキュラムでの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学び

を実践できるようにする。

3. 専門教育において、知識・技能、理論・実践を融合し、主体的に考える力を養うために講義、演習、実験、実習等の多様な教育方法を取り入れた指導を行います。
4. 学内の講義・演習の学びを臨地実習で統合実践し、看護学生として対象者に学び、成長できる支援体制を整備し、教育・指導を行います。
5. 学士課程において、地域の理解を深めるため、学外での実習等を取り入れ、地域の課題を理解し、対応できるように教育します。

【学修成果の評価】

1. GPA制度を導入し、教育効果を点検・評価し改善を行います。
2. 多様な成績評価基準に基づき厳格に評価を行います。
3. 学生は自己の学修を振り返り、自己を評価し、教員はこの自己評価に基づいて指導します。
4. ディプロマ・ポリシーに基づき、学修成果の評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html>）

（概要）

看護学科では、看護による健康への支援を通して、社会と地域の保健医療に貢献できる人材の育成を目標としています。

1. 求める学生像

看護学科では看護職者になろうという目的意識と看護学を学ぶために必要な基礎学力（知識・技能）を有し、生活している人々の身体的・精神的健康への関心（学問への関心）、自ら課題を見つけ解決しようとする意欲と行動力（主体性）、他者への共感と円滑なコミュニケーション能力（協調性・思考力・表現力）を持つ人、また、学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる学習意欲の高い人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

選抜区分	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。
学校推薦型選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的でかつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））

求める能力や適性等		知識・技能	主体性 学問への関心	協調性 思考力 表現力
選抜区分				
前期日程	共通テスト	◎		
	面接		◎	○
学校推薦型選抜	共通テスト	◎		
	小論文		○	◎
	面接		◎	○

4. 入学までに身に付けてほしいこと

入試科目として課しているかどうかにかかわらず国語、地理歴史・公民、数学、理科、

外国語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、主体性、コミュニケーション能力など、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。

また、国際化の時代にあつて、海外から看護の知識を導入し、わが国の看護の成果を発信していくためにも国際語である英語を学習する必要がある。

学部等名 工学部工学科

教育研究上の目的（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/>)

（概要）

工学部は、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、今後ますます進展する高度な科学技術に挑戦し、創造することができる人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

（概要）

本学に所定の期間在籍し、基準となる単位を修得するとともに、本学部本学科の目的・理念及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（工学）の学位を授与します。

1. 全学に共通な学修成果である「学士基盤力」を身につけている。
2. 工学科共通及びプログラムにおける「学士専門力」を身につけている。
3. 卒業研究として、獲得した知識や技能を統合し課題を解決することができ、その成果を論文としてまとめることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html>)

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成します。
2. 基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、英語（外国語コミュニケーションを含む）)、課題発見科目(データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系)と未来共創科目を設置します。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために、プログラム・課程専門科目を設置します。
4. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置します。
5. 工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、工学技術者として必要な倫理・規範や責任を判断できる能力を養成する科目を設置します。
6. 専門分野に深い興味を持ち、自学自習による自発的な学習能力を養成する科目を設置します。
7. 日本語による論理的な記述、口頭発表及び討論ができ、かつ基礎的な工学英語を使ったコミュニケーション能力を養成する科目を設置します。
8. 身につけた専門知識を課題の発見や探求に利用し、更に課題解決へ応用できるデザイン能力を養成する科目を設置します。
9. 自然科学やデータサイエンス、並びに専門領域に対する基礎知識を身につけた人材を育成し、グローバルな視点から多面的に物事を考える能力を養成する科目を設置します。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習

の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知します。 2. 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを实践できるようにします。 3. 専門教育において、協調性、自己表現能力、主体的に考える力、知識・理論と実践を融合し問題解決に応用する力を養うために、講義、演習、実験、実習などの授業形態に加えて、多様な教育方法を取り入れて指導を行います。 4. 学士課程教育において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を实践できるようにします。 【学修成果の評価】 1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表します。 2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行います。 3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析します。 4. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、在学中の学修成果の全体を評価します。 5. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行います。 6. 学生が学修目標の達成状況をエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行います。	
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departement-exam/educational-policy.html）	
（概要） 1. 求める学生像 工学部では、宮崎県唯一の工学系学部として、「宮崎に根ざし世界に目を向けた工学部」を目標に、人間性が豊かで、コミュニケーション能力が高く、確実な基礎学力と幅広い応用能力を身に付け、21世紀の高度な科学技術分野や最先端技術分野で活躍できるような、問題発見・解決能力を備えた創造性豊かな技術者の育成を目指しています。そこで、以下に示す「入学後の学修に必要な能力・適性」を多面的かつ総合的な評価手法によって選考し、受け入れます。 1) 工学技術者を目指し、地域社会や国際社会の発展に貢献する意欲がある人（主体性） 2) 自ら考え、主体的に学修する目的意識を有する人（主体性） 3) 大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な協調性及びコミュニケーションの基本的なスキルを身に付けた人（協働性、表現力） 4) 工学における多様な分野にも興味を持ち、創造性豊かな技術力と問題発見・解決能力を身に付けて社会に貢献する意欲のある人（学問への関心、思考力） 5) 工学専門分野を修得できる基礎学力を有する人（知識・理解、思考力） 2. 入学者選抜の基本方針	
選抜区分	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。
学校推薦型選抜 総合型選抜	一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的かつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。
私費外国人留学生選抜	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））

選抜方法		知識・技能	思考力 表現力	主体性 協調性 学問への関心
前期日程・後期日程	共通テスト	◎	○	
	個別学力検査	○	◎	
	主体性評価			◎
総合型選抜	筆記試験	◎		
	小論文		◎	○
	面接	○	○	◎
	提出書類	○	○	◎
学校推薦型選抜	筆記試験	◎		
	小論文		◎	○
	面接	○	○	◎
	提出書類	○	○	◎
総合型選抜＜私費 外国人留学生枠＞	日本留学試験	◎	○	
	小論文	○	◎	

4. 入学までに身に付けてほしいこと

高校で履修した科目に関する基礎学力について十分な深達度を得ていることが望まれる。さらに、大学での学習の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身につけておくことが望まれる。

学部等名 農学部農学科

教育研究上の目的（公表方法：

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/exam/policy/department.html>

（概要）

農学部では、健全な倫理観、多様な価値観を受容できる寛容性、社会貢献意欲、そして農学や生命科学に関する幅広い知識など、基盤的な能力（農学ジェネラリティ）を備えたうえで、農業、食物生産、自然環境の保護、獣医療などの農学基本分野における高度な専門性（実践型スペシャリティ）を持ち、自然との共生社会の実現に貢献できる人材の養成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/exam/policy/department.html>

【学部】

本学に所定の期間在籍し、基準となる単位を修得するとともに、本学部の目的・理念及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（農学科は学士（農学）、獣医学科は学士（獣医学））の学位を授与する。

1. 全学に共通な学修成果である「学士基盤力」を身につけている。
2. 学部共通及び各学科における「学士専門力」を身につけている。
3. 卒業研究（卒業論文）として、獲得した知識や技能を統合し課題を解決することができ、その成果を論文としてまとめることができる。

【農学科 動植物資源生命科学コース】

1. 農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
2. 数理・データサイエンス・AI に関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。
3. 動植物の生産や農業に関する専門知識と技能を有し、持続可能な食料供給に活用できる。
4. 動植物の生態や環境に関する専門知識と技能を有し、環境の保全と調和に活用できる。
5. 動植物資源の生命現象や食品分野への応用に関する専門知識と技能を有し、健康で豊かな暮らしの実現に活用できる。

【農学科 森林環境持続性科学コース】

1. 農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
2. 数理・データサイエンス・AI に関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。
3. 森林・緑地および関連する生物・非生物材料、国土保全、水資源利用に関する広い知識を修得し、持続可能な社会の実現に応用することができる。
4. 里地・里山で生じている国内および国際的な諸問題に対して、具体的な課題を見つけ出し、その解決方法を提案できる。
5. 生産と保全を調和させた持続可能な地域社会を実現するために、様々な関係者とコミュニケーションをとり協働して対策を実践することができる。

【農学科 海洋生命科学コース】

1. 農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
2. 数理・データサイエンス・AI に関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。
3. 海洋生命科学に関する基礎知識：海洋生命に関わる様々な現象を理解する上で必要な生物と化学の基礎知識を理解し専門分野に応用できる。
4. 生態環境学、増養殖学、応用生理病理学、生物資源化学の各領域に関する専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
5. 専門分野で修得した知識・技術を活用し、地域社会や国際社会で海洋に関わる諸問題を他と協力し解決できる。

【農学科 応用生命化学コース】

1. 農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
2. 数理・データサイエンス・AI に関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。
3. 生命化学に関する基礎知識：生命現象を理解する上で必要な化学と生物の知識を深化させることができる。
4. 応用生物化学、食品化学、生物工学の各領域に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
5. あらゆる状況下で計画的に仕事を進め、まとめる力：応用生命化学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。

「学士専門力」		
育成する資質・能力	学修成果	評価方法
【学部】	1. 農学獣医学に関する幅広い	・カリキュラムマップに示す「農学

・農学俯瞰力 ・データ運用力	知識や技術を有し、獲得した知識や技術に基づく思考や判断ができる。 2. 数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用力を有し、データ活用ができる。 3. 獲得した知識や技能を統合し課題を解決できる。	俯瞰力」「データ運用力」に係わる科目の修得
【農学科 動植物資源生命科学コース】 ・動植物生産活用力 ・動植物生態・環境活用力 ・動植物生命・食品活用力	1. 動植物の生産や農業に関する専門知識と技能を有し、持続可能な食料供給に活用できる。 2. 動植物の生態や環境に関する専門知識と技能を有し、環境の保全と調和に活用できる。 3. 動植物資源の生命現象や食品分野への応用に関する専門知識と技能を有し、健康で豊かな暮らしの実現に活用できる。	・カリキュラムマップにて示す「動植物生産活用力」「動植物生態・環境活用力」「動植物生命・食品活用力」に係わる科目の修得
【農学科 森林環境持続性科学コース】 ・環境持続性基礎・応用力 ・環境持続性解決力 ・環境持続性実践力	1. 森林・緑地および関連する生物・非生物材料、国土保全、水資源利用に関する広い知識を修得し、持続可能な社会の実現に応用することができる。 2. 里地・里山で生じている国内および国際的な諸問題に対して、具体的な課題を見つけ出し、その解決方法を提案できる。 3. 生産と保全を調和させた持続可能な地域社会を実現するために、様々な関係者とコミュニケーションをとり協働して対策を実践することができる。	・カリキュラムマップにて示す「環境持続性基礎・応用力」「環境持続性解決力」「環境持続性実践力」に係わる科目の修得
【農学科 海洋生命科学コース】 ・理解力 ・応用力 ・実行力	1. 海洋生命科学に関する基礎知識：海洋生命に関わる様々な現象を理解する上で必要な生物と化学の基礎知識を理解し専門分野に応用できる。 2. 海洋生命科学に関する専門知識：生態環境学、増養殖学、応用生理病理学、生物資源化学の各領域に関する専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。	・カリキュラムマップにて示す「理解力」「応用力」「実行力」に係わる科目の修得

	3. 専門分野で修得した知識・技術を活用し、地域社会や国際社会で海洋に関わる諸問題を他と協力し解決できる。	
【農学科 応用生命化学コース】 ・基礎理解力 ・応用力 ・実行力	1. 生命化学に関する基礎知識：生命現象を理解する上で必要な化学と生物の知識を深化させることができる。 2. 応用生命化学に関する知識：応用生物化学、食品化学、生物工学の各領域に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に活用できる。 3. あらゆる状況下で計画的に仕事を進め、まとめる力：応用生命化学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。	・カリキュラムマップにて示す「基礎理解力」「応用力」「実行力」に係わる科目の修得
卒業認定・学位授与の方針に定められた学修成果の達成度に関するその他の情報		
・外国語運用能力 ・デジタルスキル ・資格等	1. 語学検定等の学外試験のスコア 2. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定レベル 3. 資格取得、受賞、表彰歴	・TOEIC、TOIFL、英検、等 ・リテラシーレベル、応用基礎レベル ・資格証明書、等
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/exam/policy/departement.html ）		
（概要） 農学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。		
【教育課程の編成】 農学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を備えた人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。		
【教育課程の編成】 1) 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成する。 2) 広い知識を身につけ、自主的・総合的に考える力を養うため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー）、英語、課題発見科目を設置する。 3) 農学総合知識（農学ジェネラリティ）を涵養するため、学部共通科目と学科共通科目を設置する。		

- 4) 農学専門知識（スペシャリティ）を体系的に学ぶため、必修専門科目、選択専門科目を設置する。
- 5) 数理データサイエンス・AI に関する応用基礎レベルの知識を学ぶための専門科目を設置する。
- 6) 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
- 7) 実践力・応用力を育成するため、フィールドにおける実践型教育科目や地域の理解と課題解決に取り組む科目等を設置する。
- 8) 専門分野に関わる倫理観を涵養する科目を設置する。
- 9) 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業研究等の科目を設置する。
- 10) 以上の編成に沿って、以下の科目を編成する。
 1. 農学に関する専門知識とそれらを問題解決に応用できる能力を修得するための科目
 2. 社会貢献を意識し、農学に関連する知識・技術が社会と環境に及ぼす影響を理解するとともに、技術者の社会的責任を理解するための科目
 3. 安全・安心な農林水産物の安定的・持続的供給を行うための農学の知識と実践技術に関する科目
 4. 自然生態系の機能・保全に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や問題解決能力を修得するための科目
 5. 基礎科学を主とする自然科学及び情報技術に関する基礎的知識を修得するための科目
 6. 農芸化学を主とする自然科学及び情報技術に関する基礎的知識を修得するための科目
 7. フィールド体験や実験実習を通して、農学に関連する生物資源の生産、利用、管理及び環境の保全に関する科目
 8. 農学に関する情報収集能力、記述力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を修得するための科目
 9. 農学に関する課題解決のための筋道をデザインし、与えられた制約の下で自立的・計画的に仕事を進め、期限内にまとめる能力を修得するための科目
 10. チームで仕事をすることの重要性を理解し、適切に行動できる能力を修得するための科目

【教育の内容・方法】

- 1) 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知する。
- 2) 教養教育カリキュラムの導入科目、課題発見科目、未来共創科目において、必要に応じてアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにする。
- 3) 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を養うために、講義、演習、実験、実習などの多様な授業形態に加えて、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を取り入れた多様な教育・指導方法を工夫する。
- 4) 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにする。

【学修成果の評価】

- 1) 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
- 2) 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
- 3) 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴及び学生の成長実感・満足度に係

総合型選抜（大学入学共通テストを課す）	共通テスト	◎	○		
	提出書類	○	○	◎	○
総合型選抜（大学入学共通テストを課さない）	面接	○	◎	○	○
	模擬講義の受講及びレポート作成	○	◎	○	
	提出書類	○	○	◎	○
総合型選抜（帰国生徒枠）	小論文		◎	◎	○
	面接	○	◎	◎	◎
	提出書類	○		○	
総合型選抜（社会人枠）	面接	○	◎	◎	◎
	提出書類	○		○	
総合型選抜（私費外国人留学生枠）	日本留学試験	◎	○		
	小論文		◎	◎	○
	面接	○	◎	◎	◎

応用生命化学コース

選抜方法		知識・技能	思考力 表現力	学問への関 心	主体性 協働性
前期日程・後期日程	共通テスト	◎	○		
	個別学力検査	○	◎		
	主体性評価			◎	◎
総合型選抜（大学入学共通テストを課す）	共通テスト	◎	○		
	提出書類	○	○	◎	○
総合型選抜（大学入学共通テストを課さない）	面接	○	◎	◎	◎
	筆記試験	◎	◎	○	
	提出書類	○	○	◎	◎
総合型選抜（帰国生徒枠）	小論文		◎	◎	○
	面接	○	◎	◎	◎
	提出書類	○		○	
総合型選抜（社会人枠）	面接	○	◎	◎	◎
	提出書類	○		○	
総合型選抜（私費外国人留学生枠）	日本留学試験	◎	○		
	小論文		◎	◎	○
	面接	○	◎	◎	◎

4. 入学までに身に付けてほしいこと

生物、化学、数学、英語、情報以外にも、国語や社会など、高校で履修する教科・科目について偏りなく勉強しておく必要があります。また、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために、主体性、協働性、表現力などもあわせて身に付けておくことを望みます。

学部等名 農学部獣医学科		
教育研究上の目的（公表方法： https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/exam/policy/department.html ）		
（概要） 獣医学は動物の疾病の予防・診断・治療のための学問として発達してきましたが、生活の多様化や高度化に伴い、研究分野は動物の保健の向上のみならず、公衆衛生、医薬品開発、動物愛護、環境保全など、広範囲にわたる生命科学の重要な一翼を担っています。獣医学科は広範な分野で高度な専門性を発揮できる獣医師、さらに動物医学を基本とした幅広い応用能力を身につけ、高い実践能力を備えた人材の育成を目指しています。		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/exam/policy/department.html ）		
（概要） 【学部】 本学に所定の期間在籍し、基準となる単位を修得するとともに、本学部の目的・理念及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（農学科は学士（農学）、獣医学科は学士（獣医学））の学位を授与する。 1. 全学に共通な学修成果である「学士基盤力」を身につけている。 2. 学部共通及び各学科における「学士専門力」を身につけている。 3. 卒業研究（卒業論文）として、獲得した知識や技能を統合し課題を解決することができ、その成果を論文としてまとめることができる。 【獣医学科】 1. 農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。 2. 数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。 3. 動物福祉について基本的な精神と概念を身に付けるとともにグローバルな基準と動物福祉に関する諸問題を理解し、説明できる。 4. 動物組織の構造や機能、病態・疾患、感染症、公衆衛生、診断・治療・予防など、獣医師に必要な専門知識を身につけ、健全な倫理観をもって行動できる。 5. 獣医師の社会的役割を理解し、それを実践するための基本的技能、洞察力、課題探求力、論理的思考力、協調性、計画性、コミュニケーション力を身につけ、行動できる。 6. One Health の概念を理解し、地球規模の視点に立ってそれを普及・啓発するための知識、技能、行動力、情報発信力を身につけ、実践できる。 7. 国際的あるいは先端的な研究の意義を理解し、自らの強い探究心と行動力によって獣医学の発展や、新しい社会的価値の創出に貢献できる。		
「学士専門力」		
育成する資質・能力	学修成果	評価方法
【学部】 ・農学俯瞰力 ・データ運用力	1. 農学獣医学に関する幅広い知識や技術を有し、獲得した知識や技術に基づく思考や判断ができる。 2. 数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用力を有し、データ活用ができる。 3. 獲得した知識や技能を統	・カリキュラムマップに示す「農学俯瞰力」「データ運用力」に係わる科目の修得

	合し課題を解決できる。	
【獣医学科】 ・理解力・判断力 ・応用力・行動力 ・課題設定力・洞察力 ・発信力・実践力 ・探求力・創造力	1. 動物福祉について基本的な精神と概念を身に付けるとともにグローバルな基準と動物福祉に関する諸問題を理解し、説明できる。 2. 動物組織の構造や機能、病態・疾患、感染症、公衆衛生、診断・治療・予防など、獣医師に必要な専門知識を身につけ、健全な倫理観をもって行動できる。 3. 動物福祉について基本的な精神と概念を身に付けるとともにグローバルな基準と動物福祉に関する諸問題を理解し、説明できる。 4. One Health の概念を理解し、地球規模の視点に立ってそれを普及・啓発するための知識、技能、行動力、情報発信力を身につけ、実践できる。 5. 国際的あるいは先端的な研究の意義を理解し、自らの強い探究心と行動力によって獣医学の発展や、新しい社会的価値の創出に貢献できる。	・カリキュラムマップにて示す「理解力・判断力」「応用力・行動力」「課題設定力・洞察力」「発信力・実践力」「探求力・創造力」に係わる科目の修得
卒業認定・学位授与の方針に定められた学修成果の達成度に関するその他の情報		
・外国語運用能力 ・デジタルスキル ・資格等	・外国語運用能力 ・デジタルスキル ・資格等	・外国語運用能力 ・デジタルスキル ・資格等
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/exam/policy/department.html ） （概要） 獣医学科では、獣医学科ディプロマ・ポリシーで定められた教育を実践するため、農学部 の教育課程編成および実施の方針に従って、次の通りに教育課程を編成・実施します。		
【教育課程の編成】 1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養教育と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成するため、農学部の教育課程編成の方針に従って、教養教育カリキュラムを設置する。 2. 生命科学や農業、数理データサイエンス等に関する基盤知識を修得するため、農学部の教育課程編成の方針に従って、学部共通科目を設置する。 3. 獣医師としての専門的知識と技能を修得するため、獣医学モデル・コア・カリキュラ		

ムに沿って、以下の科目を設置する。 1) 獣医師の社会的役割を理解し、健全な倫理観を養うための科目 2) 動物に係る法規や動物福祉に関する知識を修得するための科目 3) 動物の体のしくみや機能を、正しく理解するための科目 4) 動物の病気のなりたちや感染症を、正しく理解するための科目 5) 公衆衛生や動物の衛生管理、繁殖に関する知識と技能を修得するための科目 6) 病気の診断・治療・予防に関する知識や技能を修得するための科目 7) それまでに修得した基礎知識や技能を実践できるようになるための科目 4. 社会の一員としての総合的な能力と社会貢献を实践するために必要な能力を涵養するため、以下の科目を設置する。 1) 専門分野における語学力や国際性を養うため、英語を用いた科目を設置する。 2) 数理データサイエンスを用いた情報分析力、洞察力、課題探求力、論理的思考力、自己表現力、寛容性など実践的な能力を養うための科目を設置する。 3) 学生自身の興味関心に基づいて、獣医学における先端的概念や、より高度な知識や技能を主体的に学び、専門性を高めるための科目を設置する。 4) 産業動物分野や公衆衛生分野など、地域社会から要請の高い領域に関して、より実践的な能力を養うため、地域行政と連携した科目を設置する。 5) 生命科学研究の社会的意義を理解し、その実践を通して、探究心や主体性、計画性、協調性を養うための科目を設置する。 【教育の内容・方法】 1. 教養教育カリキュラム、学部共通科目は、農学部教育課程実施の方針に従って行う。 2. 専門科目においても、ICT やアクティブラーニングの導入など農学部教育課程実施の方針に従って行う。 3. 知識や技能だけに囚われず、主体性、寛容性、社会貢献意欲を涵養するための工夫を行う。 4. 実践的な能力を養うため、数理データサイエンスを用いた情報分析力、洞察力、課題探求力、論理的思考力、自己表現力を涵養するための工夫を行う。 5. 宮崎県の特性を活かした実践型の獣医学教育を実施するため、地域との連携を図る。 6. 本学の特徴を活かした分野横断的かつ先端的な獣医学教育を実施するため、学内組織との連携を図る。 【学修成果の評価】 学修成果の評価は、農学部教育課程実施の方針に従って行う	入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/exam/policy/department.html ） （概要） 1. 求める学生像 獣医学科では、農学に関する基礎知識、獣医専門知識、獣医的倫理観、獣医的応用・実践・開拓力、地域・国際社会への貢献能力を身に付けた人材の育成を目標としています。 そこで、獣医学科では、次のような人材を求めています。 1) 自然科学や社会的な課題に対する強い関心と、獣医学を学ぶことに対して明確な目的意識を持ち、修得した知識によって自然と共生する社会の実現に貢献する意欲を持っている人 2) 国籍や言語、文化、考え方の違いを超えて、他者と協調しながら活動するために必要な語学力や自己表現力を養う意欲を持っている人 3) 根拠に基づいて論理的に課題を解決するために、情報分析力、洞察力、課題探求
---	--

力、思考力を養う意欲を持っている人

4) 数理データサイエンス・AI やそれらを活用した先端技術に興味を持ち、それを主体的に学ぶ意欲を持っている人

5) 学校推薦型選抜（地域枠）においては、獣医師として宮崎県に暮らす人々の生活を守り、地域の農林畜産業の発展に貢献する意欲を持っている人

2. 入学者選抜の基本方針

選抜区分	目的と概要
一般選抜	入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。
学校推薦型選抜（地域枠）	高等学校での学業成績が優秀で、宮崎県の産業動物獣医師確保を目的とし た修学資金給付事業の推薦を受け、卒業後、宮崎県職員の獣医師として勤務する意思のある者を対象とし、入学者を選考します。
私費外国人留学生入試	外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。

3. 選抜方法について（求める能力や適性等の評価方法とその比重（◎：特に大きい比重、○：大きい比重））

選抜方法		知識・技能	思考力 表現力	学問への関心	主体性 協働性
前期日程・後期日程	共通テスト	◎	○		
	個別学力検査	○	◎		
	主体性評価			◎	◎
学校推薦型選抜（地域枠）	共通テスト	◎	○		
	面接	○	○	◎	◎
私費外国人留学生入試	日本留学試験	◎	○		
	小論文		◎	◎	
	面接	○	○	◎	◎

4. 入学までに身に付けてほしいこと

高校で履修する教科・科目について、偏りなく勉強しておく必要があります。

また、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために、主体性、協働性なども身に付けておくことを望みます。

学部等名 地域資源創成学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/purpose/ ） （概要） 地域資源創成学部は、マネジメントの専門分野を中心に、社会・人文科学、及び農学・工学の利活用技術の基礎知識を学ぶ異分野融合教育、さらには自治体や企業等及び地域の方々と協働した実践的な教育を行い、地域振興を企画・実践できる素養を身につけた人材の育成を目的としています。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

本学に所定の期間在籍し、基準となる単位を修得するとともに、本学部の目的・理念及び教育目標に基づき、学生の学修成果が到達目標に達したと認められる者に、学士（地域資源創成学）の学位を授与する。

1. 全学に共通な学修成果である「学士基盤力」を身につけている。
2. 学部共通及び各学科における「学士専門力」を身につけている。
3. 卒業研究として、獲得した知識や技能を統合し課題を解決することができ、その成果を論文としてまとめることができる。

【企業マネジメントコース】

1. 地域資源創成のために必要なマネジメントの専門知識を有し、社会で活用できる。
2. 地域資源創成のために必要な社会・人文科学、及び農学・工学の利活用技術の基礎知識を有し 複眼的な視野から地域資源の価値を捉えることができる。
3. 国内外の産業経済構造を俯瞰的に捉え、地域の社会経済状況を調査・分析し、その知見をもって、国内市場や海外市場の開拓やリンケージ構築、企業誘致、起業等、地域経済の発展に向け、既存の産業に新たな価値創造（イノベーション）を引き起こし、次世代のビジネスリーダーとして地域の産業振興に寄与することができる。

【地域産業創出コース】

1. 地域資源創成のために必要なマネジメントの専門知識を有し、社会で活用できる。
2. 地域資源創成のために必要な社会・人文科学、及び農学・工学の利活用技術の基礎知識を有し複眼的な視野から地域資源の価値を捉えることができる。
3. 地域資源（農業・自然・文化等）の価値を理解し、地域資源を活用した新商品の企画、ビジネスの新展開、様々な切り口からの地域資源の魅力発信等を通じて地域資源に新たな価値を見出し、6次産業化や観光等の地域の産業創出につなげることができる。

【地域創造コース】

1. 地域資源創成のために必要なマネジメントの専門知識を有し、社会で活用できる。
2. 地域資源創成のために必要な社会・人文科学、及び農学・工学の利活用技術の基礎知識を有し複眼的な視野から地域資源の価値を捉えることができる。
3. 中山間地域における過疎・高齢化、中心市街地衰退等の課題解決や、地域社会の維持発展に向けて、地域における住民の組織やネットワーク、行政制度等について理解するとともに、地方都市・農山村の経済機能、社会機能、環境機能を総合的に捉え、地域活動を有機的に連結し、活性化できる持続可能な地域づくりをトータルマネジメントできる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/department-exam/educational-policy.html> ）

（概要）

地域資源創成学部では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げた、地域における新たな成長産業の振興及び地域活性化を企画・実践できる実務的素養を身につけた人材の育成を目的とするため、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、教育を実施します。

【教育課程の編成】

1. 学生の修得すべき学修成果を重視し、教養科目と専門教育の区分にとらわれず、体系的な学士教育課程を編成します。
2. 基本的な学習能力の獲得と文理横断的な教育課程の編成のため、すべての学生が履修する教養教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・データリテラシー、専門接続系）、課題発見科目（データサイエンス系、人文・社会・芸術系、自然・生命・技術系、地域・国際・学際系）と未来共創科目（構想・デザイン系、協働・創造系）を設置します。
3. 専門的な方法論と知識習得のため、専門基礎科目と専門科目を実践実習・専門分野教育の両面から体系的・段階的に設置します。

4. マネジメント力を養成するために必要な科目と、地域の課題や地域資源の価値を複眼的な視点から捉える能力を養成するために「企業マネジメント」、「地域産業創出」、「地域創造」の3つの科目群に分けて、社会・人文科学、及び農学・工学の科目を設置します。
5. 英語での論理展開、ビジネス交渉ができるコミュニケーション能力を修得するための英語科目を設置します。
6. 地域を志向した教育・研究・地域貢献を推進するため、学士課程に地域の理解と課題解決に取り組む科目を設置します。
7. 獲得した知識や能力を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく実践的な能力や態度を育成するために、演習・実習・卒業研究等の科目を設置します。

【教育内容・方法】

1. 各授業科目について、到達目標、授業計画、成績評価基準・方法、事前・事後の学習の指示、ディプロマ・ポリシーとの関連を明記し、周知します。
2. 教養教育において、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、初年次から学生が自ら学修計画を立て主体的な学びを実践できるようにします。
3. 専門教育において、知識・理論と実践を融合し、主体的に考える力を育成するために、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）、演習・実践を積極的に取り入れた多様な授業形態、指導を行います。
4. 学士課程において、地域の理解を深める題材を取り入れ、地域の課題解決を実践できるようにします。

【学修成果の評価】

1. 学修目標の達成水準を明らかにするために、成績評価基準・方法を策定・公表する。
2. 個々の授業科目においては、成績評価基準・方法に基づき、定量的又は定性的な根拠により厳格な評価を行う。
3. 学修成果を把握するために、教育活動、学修履歴、及び学生の成長実感・満足度に係る情報を適切に収集・分析する。
4. GPA 制度を導入し、客観的で透明性の高い成績評価を行う。
5. 学生が学修目標の達成状況についてエビデンスを持って説明できるよう学修成果の可視化を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/exam/departments-exam/educational-policy.html>）

（概要）

地域資源創成学部では、地域資源を活用し新たな価値を創成する企画力・実践力の育成を図り、地域の活性化に不可欠なイノベーション創出に向けたマネジメントの知識と、地域資源の価値を複眼的に捉える視野を持った人材を養成し、実社会で即戦力として活躍できる人材の輩出を目標としています。

1. 求める学生像

地域資源創成学部では地域振興に対して熱意（学問への関心）を持って取り組み、社会科学および自然科学に対する基礎学力（知識・技能）を有し、コミュニケーション能力・表現力と思考力・判断力を持つ人、また学習を通して獲得した知識・スキル・行動力を社会に還元することのできる強い意思を持った人材を求めています。

2. 入学者選抜の基本方針

1) 一般選抜（前期日程）

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。選抜方法については、大学入学共通テストと総合問題によって、知識・技能、思考力、表現力について総合的に評価

します。特に、大学入学共通テストにおいては知識・技能に比重を置き、総合問題においては思考力、表現力に比重を置いています。また、主体性評価として、調査書、自己申告書によって、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を評価します。

2) 一般選抜（後期日程）

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とし、「前期日程」と「後期日程」の選抜区分により、入学者を選考します。選抜方法については、大学入学共通テストと小論文によって、知識・技能、思考力、表現力を総合的に評価します。特に、大学入学共通テストにおいては知識・技能に比重を置き、小論文においては思考力、表現力に比重を置いています。面接では、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を評価します。

3) 学校推薦型選抜

一般選抜では評価が難しい多様な能力や資質を有し、意欲的でかつ本学部への志望動機が明確な入学希望者を対象とし、入学者を選考します。選抜方法については、小論文、面接によって多様な能力を総合的に判断します。

小論文では、知識・技能、思考力、表現力について評価します。面接においては、提出書類を踏まえて、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を評価し、なかでも主体性、コミュニケーション能力、学問への関心に比重を置いています。

4) 私費外国人留学生選抜

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生を対象とし、入学者を選考します。選抜方法については、日本留学試験、小論文、提出書類を踏まえた面接によって、知識・技能、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を総合的に評価します。日本留学試験においては知識・技能、思考力、表現力を評価し、なかでも知識・技能に比重を置いています。小論文においては知識・技能、思考力、表現力を評価します。面接においては、思考力、表現力、主体性、コミュニケーション能力、学問への関心を評価し、なかでも主体性、コミュニケーション能力、学問への関心に比重を置いています。

3. 入学までに身に付けてほしいこと

国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語など、高校で履修した科目に関する基礎学力を十分に身に付けると同時に、科目を越えて地域を捉える姿勢、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度など、大学での学修の効果を高め、充実した学生生活を送るために必要な対人スキルを身に付けておくことが望ましい。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/system/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	9人	—					9人
教育学部	—	19人	21人	11人	0人	0人	51人
医学部	—	51人	30人	14人	93人	5人	193人
工学部	—	41人	39人	0人	16人	0人	96人
農学部	—	49人	40人	1人	12人	0人	102人

地域資源創成学部	—	9人	14人	5人	1人	0人	29人
教職大学院	—	13人	4人	0人	0人	0人	17人
大学院地域資源創成 学研究科	—	0人	0人	1人	0人	0人	1人
附属病院	—	5人	8人	22人	110人	1人	146人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		331人					331人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://srhumdb.miyazaki-u.ac.jp/search?m=home&l=ja					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	140人	151人	107.9%	520人	567人	109.0%	0人	0人
医学部	160人	162人	101.3%	860人	881人	102.4%	0人	0人
工学部	370人	372人	100.5%	1,500人	1,567人	104.5%	20人	15人
農学部	265人	278人	104.9%	1,160人	1,232人	106.2%	0人	0人
地域資源創成学部	90人	96人	106.7%	360人	391人	108.6%	0人	0人
合計	1,025人	1,059人	103.3%	4,400人	4,638人	105.4%	20人	15人
（備考）収容定員・在学生数は、編入学を含む								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
教育学部	128人 (100%)	18人 (14.1%)	110人 (85.9%)	0人 (0.0%)
医学部	195人 (100%)	4人 (2.1%)	182人 (93.3%)	9人 (4.6%)
工学部	328人 (100%)	160人 (48.8%)	163人 (49.7%)	5人 (1.5%)
農学部	288人 (100%)	76人 (26.4%)	194人 (67.4%)	18人 (6.3%)
地域資源創成学部	83人 (100%)	3人 (3.6%)	77人 (92.8%)	3人 (3.6%)
合計	1022人 (100%)	261人 (25.5%)	726人 (71.0%)	35人 (3.4%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)					
(備考)					
c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
「シラバス作成のためのガイドライン (シラバス作成要領)」(令和3年10月21日宮崎大学教育委員会決定)に基づき、シラバスを作成している。授業開始前に、授業科目に関する基本情報、授業の目標に関する情報、授業内容・方法に関する情報、成績評価に関する情報、教材に関する情報、教員に関する情報、履修に関する情報を記載したものを作成し、学生に周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

成績評価を受ける出席要件は、授業回数の 75%以上（医学部では3分の2以上）としている。成績評価基準と成績評価方法は、キャンパスガイド及びシラバスを通して学生に周知し、学期の初回の授業時にも説明している。シラバスに明記された成績評価基準・評価方法に従って、授業への取組状況、レポート、中間テスト、最終試験等の組み合わせにより成績評価を行い、単位を認定している。

本学の教育方針として、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）の点検・評価項目の一つに「GPA 制度を導入し、教育の質保証に向けて点検・評価・改善を行う」と定めている。本学では、学生が学習・教育目標を高いレベルで達成するため、学修支援システムの一つである「学習カルテ：履修システム」に GPA を導入し、学生自ら自分の GPA を確認できるようにしている。また、本学では、医学部を除き履修登録に上限を設定し、キャンパスガイド等で周知している。

宮崎大学学務規則で卒業認定基準を定めており、本学の教育理念に基づいたディプロマ・ポリシーを策定・公表している。学科等で卒業判定を行い、最終的に学部教授会で卒業に必要な単位数を満たしているか等を確認し、卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育課程	2019 年度以降入学 137 単位 2018 年度以前入学 136 単位	有・無	単位

医学部	医学科	2019 年度以前入学 243 単位 2020 年度以降入学 239 単位 2022 年度以降入学 233 単位	有・無	単位
	看護学科	2021 年度以前入学 129 単位 2022 年度以降入学 131 単位	有・無	単位
工学部	環境応用化学科	128 単位	有・無	単位
	社会環境システム 工学科	128 単位	有・無	単位
	環境ロボティクス 学科	128 単位	有・無	単位
	機械設計システム 工学科	128 単位	有・無	単位
	電子物理工学科	128 単位	有・無	単位
	電気システム 工学科	128 単位	有・無	単位
	情報システム 工学科	128 単位	有・無	単位
	工学科	128 単位	有・無	単位
農学部	植物生産 環境科学科	128 単位	有・無	単位
	森林緑地 環境科学科	128 単位	有・無	単位
	応用生物科学科	128 単位	有・無	単位
	海洋生物環境学科	128 単位	有・無	単位
	畜産草地科学科	128 単位	有・無	単位
	獣医学科	2021 年度以前入学 195 単位 2022 年度～2024 年度入学 194 単位 2025 年度入学 183 単位	有・無	単位
	農学科	124 単位	有・無	単位
地域資源創成学部	地域資源創成学科	2017 年度～ 2020 年度入学 130 単位 2021 年度以降入学 128 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.miyazaki-u.ac.jp/administration/public/legal/rule/place/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部		535,800 円	282,000 円	17,000 円	その他は検定料
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 「学習カルテ：履修システム」を活用した学習指導を行っている。「学習カルテ：履修システム」は本学が独自に開発したシステムであり、学生自らディプロマ・ポリシーに係わる自己の学習の到達度、登録単位、修得単位、GPA、授業科目毎の成績分布を確認し、学習の振り返りを行うことができるようになっている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） キャリア支援と就職支援の2つの支援体制をとっている。キャリア支援では、インターンシップの支援を行っている他、学生のアイデアをビジネスプランとして練り上げる事業計画書（ビジネスプラン）とプレゼン力を審査する「宮崎・学生ビジネスプランコンテスト」を実施しており、学生の持つ問題意識や発想力、構想力、研究成果を活かしたチャレンジを支援している。就職支援では、就職ガイダンス、個別に応じた就職相談、大学独自の会社説明会、企業・官公庁訪問の職場見学ツアーなどを行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 安全衛生保健センターで急病やけがの応急処置をはじめ、生活習慣病に対するアドバイスや心理・精神的な問題に対するカウンセリング等を行っている。また、実験・研究中や作業中の事故を防止するための啓発活動や各種安全マニュアルの策定等も行っている。また、学生が学生生活を送る上での様々な問題について相談に応じるため、「学生なんでも相談室」を開設している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： http://www.miyazaki-u.ac.jp

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F145110111523
学校名 (〇〇大学 等)	宮崎大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人宮崎大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		481人（ ）人	511人（ ）人	513人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	278人	280人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅱ区分	115人	115人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅲ区分	69人	60人	
	(うち多子世帯)	()人	()人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	19人	28人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				3人（ ）人
合計（年間）				516人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	12人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	—
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	19人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	41人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	0人	人	人
計	41人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。